

高速化する市場、 重要な「もう一つの」分散

最

近のヒット曲を聴くと、ずいぶんとせかせかせかした曲だな……と思うことはないだろうか。ヒットソングを分析すると、過去との比較でテンポは速くなり、曲の長さやイントロは短くなり、そして曲名すらも短くなっているという。「今ほど変化のペースが速い時代は過去になかった。だが今後、今ほど変化が遅い時代も二度と来ないだろう」—— 2018年の世界経済フォーラム年次総会において、カナダのトルドー首相が残したとされる名言だが、世界中の情報が瞬時に共有される時代にあって、技術や社会が変化するスピードは確実に速まっている。

株式市場も例外ではない。今年発生したコロナ・ショックとその後の株式市場の反転は、「史上最速の調整」と言われるが、データで見るとその速さがよく

分かる(図表1)。米国では半世紀以上破られなかった記録を更新。しかも、100m走で言えば4秒台で走破するような大きな変化だ。日本株を見ても日経平均株価の営業日別上昇幅ランキングのベスト10に、2020年3月が2日間も入っている(図表2)。このような急速な上昇や反転を確実に捉えることができれば、株式投資のパフォーマンスが向上することは間違いない。しかし、「落ちてくるナイフをつかむな」という相場格言もある通り、そのタイミングを知ることは難しい。

これに対処する一つの方法が、時間分散だ。定額での取引を続けることで、買いや売りの機会を逃さない。パフォーマンスは平準化されるが、タイミングを逃すことはなくなる。堅実志向の投資家にとっては心強い味方と言えるだろう。この機会にこの方法を取り入れてみてはどうだろうか。



■ 図表1 S&P500種株価指数 弱気相場から最短で戻した例

(過去最高値から次に高値更新するまで)



(出所)ダウ・ジョーンズ・マーケット・データをもとに当社作成

■ 図表2 日経平均株価営業日別上昇幅
ランキング (2020年10月5日時点)

順位	年月日	日経平均終値	上昇幅 (円)
1	1990年10月2日	22,898.41	2,676.55
2	1987年10月21日	23,947.40	2,037.32
3	1994年1月31日	20,229.12	1,471.24
4	1990年3月26日	31,840.49	1,468.33
5	2020年3月25日	19,546.63	1,454.28
6	1990年8月15日	28,112.12	1,439.59
7	2015年9月9日	18,770.51	1,343.43
8	1992年4月10日	17,850.66	1,252.51
9	1988年1月6日	22,790.50	1,215.22
10	2020年3月24日	18,092.35	1,204.57

(出所)QUICKのデータをもとに当社作成



ビルドアップ型 MSグローバル・ プレミアム株式 (為替ヘッジなし) 2020-11 (限定追加型)

良好な運用実績をもつファンドに、
高値掴み*を回避する工夫をプラス

*高値圏だけで買ってしまい、その後値下がりしている状態。

※当ファンドは、2020年12月25日以降、購入のお申込みができません。

ファンドのお申込みにあたっては目論見書を必ずご確認ください。目論見書のご請求はお取引店までどうぞ。